

令和7年度印西市ふるさとづくり運営会議 会議録

- 1 開催日時 令和7年10月1日（水）午前10時00分から午前11時15分まで
- 2 開催場所 印西市役所会議棟2階204会議室
- 3 出席者 九鬼修委員、吉岡宏和委員、石井博美委員、居相博亮委員、
西野淳二委員、三田薫委員
- 4 欠席者 平沢浩一委員、齊藤海人委員、河村剛光委員
- 5 事務局 経済振興課藤巻課長、木村室長、入江主査補、山田主事
- 6 傍聴者 なし
- 7 議 事 (1) 座長及び副座長の選出について
(2) ふるさとづくり運営基金活用事業について
 - ①令和6年度 ふるさとづくり運営基金活用事業について
 - ②令和7年度 ふるさとづくり運営基金活用事業について
 - ③令和8年度 ふるさとづくり運営基金活用事業（案）について
- 8 議事録（要点筆記・一部要約）

○座長及び副座長の選出について

座長に九鬼修委員が、副座長に吉岡宏和委員が選出された。

○ふるさとづくり運営基金活用事業について

事務局より説明を行った。

○質疑

議事①② 委 員 ふるさとづくり運営基金活用事業でそもそも印西市はど
ういう姿を目指しているのか。理念や基本的な考え方について伺いたい。

事 務 局 印西市の子どもたちが地元で愛着を感じ、将来にわたって印西市に住み続けてもらえるように、そして市外の方が印西市に魅力を感じ定住してもらえるように、という二つの柱で運営を行っている。

具体的には、「印祭サマーフェス」は主に市内の方々を対象に、夏の素晴らしい思い出づくりを通してふるさと印西の良さを感じていただくことを目指している。また「イルミライ★INZAI」は北総線沿線で最大級の電飾を使用するイルミネーションイベントであり、駅前でアクセスも良好であることから市外の方々に印西市の魅力を知っていただくという役割を担っている。

委 員 中学生の海外派遣等、「ふるさとづくり」という言葉と事

		業のイメージが少し違うように感じる部分もあるが、ふるさと納税の使い道というところでの名称になったものと理解した。体験型のものをもっと増やしていけば、印西の魅力をより伝えられるのではないかなと思う。 イルミネーションの事業費が減っているようだがなぜか。
	事務局	令和7年度については一千万円の予算減に伴い、電飾範囲は令和5年度の規模まで縮小せざるを得ない。イベントについても今までのような形で開催することは難しい。そこで市民団体との連携によるイベント開催等、新たな試みにより別の角度でイルミネーションを盛り上げていく施策を検討・実施していく。
	委員	イベントそのものが少なく感じる。もっと駅前等で週末等定期的にイベントを開催し盛り上げていくのはどうか。電車や車から見えたり、音が聞こえたりすると行き交う人も気になって良いのではないかな。
	事務局	駅前マンションが隣接しており、自転車走行も多いことから騒音や安全面で注意が必要なところ。 音で人が集まる点については承知しており、今年は11月29日に点灯式、12月6日、13日、20日と1月25日の日程で、音楽イベントを含めた複数回のイベント開催を予定している。
	座長	昨年まで、「イルミライ★INZAI」のイベント出店者は観光協会と商工会以外は市外の事業者だった。今年は市民団体を巻き込むとのことで、印西市内の事業者の出店も増えるのではないかと期待している。
	委員	令和7年度のふるさと寄附金は令和6年度比でかなり増える見込みだが、要因は何か。
	事務局	令和7年度についてはポータルサイトの増設、返礼品の取扱い拡大（ゴルフ場利用券等）、ポイント付与廃止に伴う駆け込み需要等により増加見込み。ただ今後はポイント付与の廃止、総務省の規制強化等厳しい情勢が見込まれるため、安定的な寄附金受入れができるよう事務局として工夫して取り組んでいく。
議事③	委員	令和8年度の活用事業案の中で、新規事業である芸術祭について詳細説明を願う。
	事務局	瀬戸内国際芸術祭や中之条ビエンナーレ等、各地で行われている芸術祭の先進事例を参考に、県および周辺市町で一体となった芸術祭の開催を検討中。ふるさとづくりの観点では、市民の方々と大きなお祭りをともに創って

いくという体験になるとともに、印西市の素晴らしさを市内外の方々に知っていただける機会になることを期待している。現在検討中の段階だが、令和9年3月中旬から5月中旬を会期として見込んでいる。

委員 芸術祭を開催するにあたっては広報・ブランディング戦略が最重要と考える。是非力を入れていただきたい。
事務局 広報についてはそれなりの費用をかける必要があると考えている。先進事例を検証し、今後検討していく。

その他 委員 印西市に住んで間もないが、北総花の丘公園の自然環境に感動した。観光資源として活かせないか。
事務局 またデータセンターは悪者扱いされがちだが、社会情勢を鑑みても今後必要な設備であることは間違いない。その中で、せっかく印西市にデータセンターが集積しているのであれば、事業者とタイアップして子ども向け見学会を開催するなど、教育に役立つ施策は何かできないか。印西市は都市と自然の共存が一番の魅力と考えている。デジタル教育については担当課（教育部指導課）とも共有し検討していく。

以上

令和7年度印西市ふるさとづくり運営会議の会議録は、事実と相違ないことを承認する。

令和7年10月23日

印西市ふるさとづくり運営会議委員 吉岡 宏和